

事務事業名		人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり					担当組織	担当部	産業文化部	担当課	商工課
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり					担当係	商工振興係	担当課長名	木村 晴一	
	施策	2 まちなかの活性化と公共交通網の整備					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 計画的な中心市街地活性化の推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	10767	一般	7	1	5	人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会運営事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H16年度～ 年度			根拠法令等	佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例 佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例施行規則 佐野市人間国宝田村耕一陶芸館企画展示部会要綱				
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
							実施方法		直営		
						事業分類		審議会・協議会等運営事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		3-1			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)								
<ul style="list-style-type: none"> 佐野市人間国宝田村耕一陶芸館の適正かつ円滑な運営を図るため、佐野市人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会を設置している。 委員は、学識経験者、関係機関・団体を代表する者及び市職員13名で構成され、任期は2年、本館で開催する企画展の内容及び広報活動等を協議している。 委員会には、委員長及び副委員長を各1名置き、部会に属する委員の互選により決定、委員会の会議は委員長が招集し、委員長が議長となる。 委員会には、陶芸館の企画展示を専門的立場から調査研究し、施設に相応しい展示内容を確保するとともに展示作業等の円滑化を図るため、人間国宝田村耕一陶芸館企画展示部会を設置している。 企画展示部会は、委員長が委員の中から指名(4名)、部会長及び副部会長を各1名置き、部会に属する委員の互選により決定する。 			<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会 平成27年2月3日(火)開催 議題:平成27年度企画展について、平成27年度ポスター・パンフレットの作成について等 企画展示部会 平成26年8月1日(金)開催 議題:所蔵作品図録の作成について、開館10周年記念事業の実施について 平成27年1月16日(金)開催 議題:陶芸館運営委員会の提出議題及び開催時期について等 								
活動指標			単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)			
運営委員会の開催回数			回	1	1	1	1	2			
企画展示部会の開催回数			回	1	2	1	1	2			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
①人間国宝田村耕一陶芸館 ②企画展 ③入館者(市民、観光客)			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
企画展開催回数			回	3	3	3	3	3			
入館者数(陶芸館総数)			人	5,773	5,133	6,000	6,000	6,000			
入館者数(まちの駅、赤ちゃんの駅)			人	2,206	2,358	2,200	2,200	2,200			
目的											
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
①適正かつ円滑な運営が図られる。 ②人間国宝田村耕一の業績や作品を広く紹介する展示内容が確保される。 ③人間国宝田村耕一の業績や作品の芸術性の高さを知ってもらう。			管理運営上のクレーム件数	件	0	0	0	0	0		
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)											
魅力的な賑わいのある中心市街地となっている。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
イベントの参加人数			人	184,383	99,623	214,000	225,000	236,000			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)					
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	107	53	160	160	160					
	事業費計(A)	千円	107	53	160	160	160					
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			委員報酬	107	委員報酬	53	委員報酬	160	委員報酬	160	委員報酬	160
	人件費	人	3	3	3	3	3					
のべ業務時間	時間	49	49	49	49	49						
人件費計(B)	千円	191	193	193	193	193						
トータルコスト(A)+(B)	千円	298	246	353	353	353						

事務事業名	人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会運営事業	担当部	産業文化部	担当課	商工課	担当係	商工振興係
-------	----------------------	-----	-------	-----	-----	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成16年11月3日に陶芸館が開館し、適正かつ円滑な運営を図ることを目的として、学識経験者、関係団体及び市職員で構成する委員会を設置した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成22年11月3日に陶芸館が入るビルが、まちなか活性化ビル「佐野未来館」としてオープンし、ビル2階の市民ギャラリー、3階のチャレンジショップの事業が開始され、また、まちなか活性化のイベントも開催されるようになったことから、開館当初と比較すると入館者数は増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	運営委員会委員(企画展示部会委員)より、「現在、企画展示部会が企画展の企画を担っているが、限界がある。また、展示品の解説等もできるように、陶芸館に学芸員を配置すべきだ。」との意見があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	委員の欠席がないよう、会議日程の調整を図った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 この事業は、まちなか活性化の拠点である陶芸館の適正かつ円滑な運営に資するものであり、政策体系に結びつく事業である。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 陶芸館は人間国宝田村耕一の業績や作品を広く市民や来訪者に紹介する施設であるとともに、まちなか活性化の重要な拠点施設でもある。この施設の適正かつ円滑な運営を図るため、運営委員会を設置し、委員会での協議結果を陶芸館の管理運営に反映することは市の責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 この事業は、陶芸館の適正かつ円滑な運営、企画展の充実等に資する事業であるため、現状の対象・意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 企画展示部会の提案をより効果的に事業運営に反映させることが必要である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 事業費は、全て運営委員会委員の報酬であり、削減余地はない。また、人件費については、運営委員会及び企画展示部会開催のための資料作成、日程調整、会議運営のための業務所要時間であり、これも削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 この事業は、委員会を設置して、陶芸館の適正かつ円滑な運営を行うための事業であり、受益者は特定されないため、負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	陶芸館が廃止されれば、本事業は終了となる。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 企画展示部会の提案をより効果的に事業運営に反映させることが必要である。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	